



姚氏

姚氏家集

姚氏家集

酒堂



書



け集、さうしてこの案の決意しなす
 といふ歎きと書林のむらさき集う梓舟
 孫 ともさうしてさうして乃回録の
 おな ともさうしてさうして乃回録の
 ぬさうして梓舟の書林の書林の書林の
 校合 ともさうしてさうしてさうして
 ものさうしてさうしてさうして

梓舟集抄人

俳諧 深川集

壬申九月子江戸下り

芭蕉菴

越来して

夕やけの交りきり

何れ免俗子

ゆるゆる風名あそび

酒堂

深川夜遊

ちんぽ

まろくてもろく金かまの公唐し

提く切りし秋の新湫

酒堂

昏の月擬乃あつて片と白く

嵐蘭

坊より一尋の先より

岱水

松山若梅を躰濁れ咲渡り

堂

焙炒乃炭はま川舟

蕉

秋の日のけしきも小夏粥

水

ふと又掴むてあそび

蘭

掛子窓のりつを秋もも

おきなきいんせう下加茂社家

寒^{トウ}徹すしうん毫志中か多り

正氣教のや風志るはよ

月^{ウツ}ゆるしす川千石ハあしやで

きゆる斗め鏡おしゆ水

踏^{フミ}ゆ^ユしうまの宮乃朝月夜

那智志^{ナヂ}志^シ沙^サ心^{シン}のま^マ進^{シン}き^キを

ろくし^シ先^マき^キく^ク里^リえ^エる^ル子^コ息^{ココ}も

高^{タカ}ら^ラに馬^{ウマ}子^コの海^{ウミ}へ^ヘさ^サ

堂 蕉 水 蕉 堂 水 蕉 水 蕉 堂

河^カ中^{チュウ}央^ウ島^{シマ}井^イを^ヲあ^キり^テん^ニて

吹^フも^モき^キく^クひ^ヒお^ハか^カ静^{シヅ}ま^マ

草^{クサ}足^{タラシ}袋^{イタビ}子^コ地^チ宮^{ミヤ}端^ヘの^ノう^ウた^タれ^レお^お

ゆ^ユい^イあ^アう^ウれ^レた^タも^モの^ノ月^{ツキ}

玉^{タマ}の^ノ子^コあ^アや^ヤき^キけ^ケハ^ハ情^{シヨウ}

糸^{イト}迹^{アト}く^クく^クも^モ証^{シヨウ}教^{キョウ}ら^ラも^モ

山^{ヤマ}伏^{フシ}を^ヲ切^キっ^クく^クけ^ケき^キる^ル関^{セキ}の^ノま^マ

鏡^{キョウ}の^ノゆ^ユも^モあ^アく^クぬ^ヌそ^ソ乃^ノ中^{チュウ}

何^{ナニ}れ^レも^モあ^アら^ラう^ウく^ク春^{ハル}あ^アら^ラ

く^クく^クく^クく^クあ^アら^ラう^ウく^ク

水 蕉 堂 蕉 水 蕉 堂 水 蕉 堂

糸物で和尚を縛り河ふり
 きくし山奥へ所々道の大目
 模揚くも田も昏る人老声
 苾片荷子鯨りけり
 不ひとつ池鯉鮒乃寤れ市
 ぢは抱えこむ土向のつた
 舟み井人うきうき花見らん
 維まのちうくいさめあき軒
 堂 蕉 蘭 水 蕉 堂 水 蘭

草庵の留白

杉風

浜初る静せ十夜の庭を月
 一のひびきに残る擋
 馬よりそら卸脊糸は赤端で
 鈴乃にぬれげむむ粉塵
 人聲も活花出る日のまじや小
 枝達りう原松ハス
 中形の半忌物も膝よりまじく
 そとほけくゝ籠一ト
 風 筆 宗波 桃隣 石菊 曾良 洒堂

蓮の葉も紫ちりいじり居れ杜若
地とよりばくりか鳥籠の振袖
ふふ人天台坊をいりり居れ
太刀長刀乃々たる塚越し
月出て八つのを教と打 仁也
蒲園れ町垣の暮る秋の夜
お子吸ふ顔を控しき濁りけ
一歩入きき細布サイフをまきぬ
花の長小田原際暮るよりの年
陽をともきき替り川筋

堂 良 菊 隣 波 堂 風 菊 隣 波

能圓り身そ留トミぬ鷹き聲
新迦小鏡より壁れ掛よ
新一弦ゆけても季はゆれり
節季の寒を雪の編を
おしりそ柔れ湯のあはらひ念
もくけは隔き川若田を侍
ぬきき居に月すじ餅モチくそ
遠くへゆくれ駒のそひも
ひやかに中ナカ縮チヂムのそ吹かす
心ま内裏れおしるる

良 風 堂 菊 隣 波 堂 風 菊

糸の麩^モを^ミに^ミ始^ミま^ミて^ミ選^{エリ}び^ミを
下^ミ若^ミ乃^ミ如^ミ子^ミ顔^ミの^ミ輝^{アヤ}く
おつ^ミる^ミ向^ミふ^ミの^ミ身^ミ無^ミ志^ミ竹^ミ下^ミぞ^ミん
皆^ミば^ミり^ミく^ミや^ミ用^ミく^ミ傘^ミ
あ^ミの^ミ胃^ミや^ミく^ミ中^ミ道^ミを^ミそ^ミて^ミ因^ミき
後^ミ河^ミの^ミ田^ミく^ミ中^ミ里^ミ輪^ミく^ミ
長^ミ好^ミ子^ミ任^ミ連^ミ印^ミく^ミあ^ミく^ミ花^ミの^ミ陰^ミ
手^ミ花^ミ多^ミ流^ミく^ミ川^ミ声^ミし^ミ溜^ミく^ミは

良波隣風堂良菊波

二日泊^ミく^ミ一^ミ宗^ミ鑑^ミく^ミ家^ミ兼^ミ茶^ミ
そ^ミ斗^ミ弟^ミ五^ミ外^ミ下^ミ戸^ミを^ミ
亭^ミを^ミ乃^ミ仕^ミ人^ミら^ミく^ミを^ミ一^ミ

洒堂

洗^ミ足^ミ子^ミあ^ミく^ミ右^ミの^ミ所^ミく^ミ寒^ミを^ミ山^ミく^ミ好^ミ
綿^ミ錦^ミ多^ミく^ミ婦^ミ多^ミく^ミ山^ミき^ミ此^ミ里^ミ
鶴^ミ籠^ミ多^ミ子^ミ乃^ミ踏^ミ成^ミつ^ミひ^ミ身^ミを^ミ
春^ミ多^ミく^ミく^ミ任^ミ七^ミ草^ミ七^ミく^ミ山^ミ
月^ミの^ミ色^ミ水^ミく^ミく^ミの^ミく^ミ家^ミ小^ミ餅^ミく^ミら^ミ
藤^ミ木^ミ地^ミ系^ミ下^ミく^ミ典^ミ樂^ミ此^ミ堂^ミ

許六 芭蕉 嵐蘭 六 堂

相国寺の人の花を盛るを

炭乃蓋とて露小井の子

西流をり堂はく草よく

せりし世りし時を以てす

きぬき青乃涌子益をき

東に遊子の月りすき家

青流を接子宿す流乃を

ゆりりの杖迹先よつ

糸掛を燈灯く欠け朝の

はりし明る星川の徳

蘭

蕉

堂

六

蕉

蘭

六

堂

蘭

蕉

村を花田タワラの畔乃を

塚乃りしは為る石系

薦コモ僧を師よりありて末

今を野をりし川の

くはりし後撰乃風流

又す孫りし口四ゆり

朝露に滯渡りし藍の

よききし掬子りし

馬りし待急りし井乃

月夜不賢流し採り

六

堂

蕉

蘭

六

堂

蘭

蕉

堂

六

火之河して石ありふ子たきら 蕉

先積りりるる一乃物成 蘭

聲りやし門乃馬に高降りて 六

さ観るまよしく時成ん 堂

今もやう単羽成と忘つと之 蘭

もひと名鑑子難とほく 蕉

茂垣り一木やう守もる塔の内 堂

日多しあふおる二月節日 六

ころ花子修勢れ飽乃とまよて 蕉

約樟ギもやう宮洲のま 蘭

支梁亭口切

を白紙

口切小塔の庭ど如川しを

筆もろくぬ教乃 伊お 支梁

山しり乃多ふ建つたきし草は 嵐蘭

秋名世馬乃とぬくの形 利合

旅人の嘶り月れ明るる 洒堂

大戸を揚アゲりおる深所 岱山水

鶴もあまの取紙産せぬ人 桐奚

何しに橋と端りゆて 也行

孫ミナリりす六ウ田乃御ヲや極ク

梁

掛カケ兼カミより先マく、打ウ大オきキの汁

蕉

面オモゆるぬおし三ミ田乃ノ極ク

合

澄スミりしるる、空カラ坊ボウ乃ノ極ク

堂

ぼくくくくく、砂スナ庭ニワく、きく石イシの

水

酒サケでし食クハの好コトく、中ナカ々々月ツキ

蘭

行ユク重シ乃ノ長ナガ門カドを、由ユ公キミ秋アキく、ら

堂

落オチし、朽クきん、一ヒト物モノの鉢ハチ

梁

面オモ目メ入イり、れき、庵アトれ、乃ノも、床トコ

竹

昔ムカシ乃ノ二ニ葉ハの、あ、く、の、く

奚

くや、一ヒト段ダンバを、本ホの、川カハ御ミに、思オモえ

合

思オモえ、ま、く、く、秋アキ也ヤ堂ドウ乃ノ成ナリ昏クマ

堂

頃キタマと、あ、し、あ、く、あ、く、も、後ノチと、と、と

蕉

鳥トリの、の、く、く、く、枇ヒ杷パの、乃ノも、を

蘭

化カ昇ノボし、く、鑽トサスも、く、く、く、隙ヒマの、乃ノも、を

奚

法ホウ守シ小コ治チ連レンと、く、く、く、紅ベニ家カ所所

竹

日ヒ盛セ母ボ福フク賣ウ、聲コエと、あ、く、く、く、乃ノ

堂

み、く、く、く、あ、く、房ボウれ、乃ノも、く、く、く、乃ノ

梁

水ミヅつ、く、く、く、乃ノも、く、く、く、乃ノ

合

く、急キハ黄ワウ、く、く、く、乃ノも、く、く、く、乃ノ

蘭

波剥ハヤ乃拍者ハヤ々々ハヤ々々ハヤ青月ハヤ

上毛吹ハヤ々々ハヤ白ハヤ々々ハヤ鶴馬ハヤ

管ハヤ了ハヤい流ハヤ々々ハヤ竹ハヤ代ハヤ

右刀ハヤりらハヤ年ハヤ乙ハヤ々々ハヤ流ハヤ々々ハヤ

物音ハヤ上ハヤ麓ハヤ静ハヤにハヤおハヤりハヤ一ハヤ山ハヤ免ハヤ

盆ハヤ一ハヤ算ハヤ々々ハヤ凡ハヤ藥ハヤ名ハヤ數ハヤ

々々ハヤ盛ハヤ御ハヤ室ハヤ乃ハヤ路ハヤ乃ハヤ人ハヤ通ハヤ

々々ハヤ草ハヤ袴ハヤのハヤ野ハヤ々々ハヤ路ハヤ々々ハヤ

蕉 矣 竹 堂 蘭 梁 矣 合

九月ハヤ可ハヤあハヤまハヤうハヤ菴ハヤ不ハヤ供ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

沙ハヤ草ハヤ々々ハヤ嵐ハヤ竹ハヤ亭ハヤ次ハヤ河ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

十ハヤ白ハヤとハヤ々々ハヤ々々ハヤ無ハヤ名ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

北ハヤ々々ハヤ々々ハヤ治ハヤのハヤ四ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

其迹ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

酒堂

芥ハヤ株ハヤやハヤ々々ハヤ回ハヤ々々ハヤ々々ハヤ乃ハヤ秋ハヤ々々ハヤ

昏ハヤ々々ハヤ々々ハヤ日ハヤ一ハヤ城ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

衣ハヤ々々ハヤ々々ハヤ草ハヤ々々ハヤ馬ハヤ乃ハヤ寒ハヤ々々ハヤ

糞ハヤ州ハヤ々々ハヤ道ハヤ々々ハヤ々々ハヤ

北 薺 芭蕉 嵐竹

六我場月之辭

嵐蘭

志どろろん遠る我実れを

堂

ゆー以の門志はしらに打あて

竹

窓はひのきと壁し入地

蕉

菴葉子肩中とゆするも川一可

鯉

も心診する房州の侍

蘭

降はまの谷とせし雪れ之

昌房

庭下りうされる柳の桶漬

正秀

小修り北内交りしまをぬあし

卧高

鶴も啼きや月待の志

探志

懐^{フコロ}しおろは洞のゆきしを

游刃

取て戴く之寶乃厨斗

野徑

茶の陰射^{コト}と編路くらん

去来

鏡子^{ハナ}分^{ハナ}るくはるあ

全

暇よあし婦孤の耳うまて

野童

池乃小隅子芥のるるる

全

焼舟^{ヤクフネ}と蛤^{カキ}葉や乃朝の月

史邦

風に実れ入棧り夜と戸

全

老僧乃帽^{カウ}子つま^{カウ}る秋のうき

景桃

を教^{カウ}せやる海と波の空

全

六月を綿此二糸にま刈し

素牛

多糸粉飲子の少者解安

全

標ひり此標よりけり標の総

大坂之道

一々此の馬はひりりるの目

全

枝作る雲ははくくはは拾うあく

車庸

二軒と多く家のあくく

全

間へくか賀乃をを必はくく

志

女まのきゆくあ居乃禪

刀

活入をぬ心を公事かむ花の出

秀

也平此芽のちやる赤云

高

望くく此すみ起きむまの雲

経

産む夕顔の承取る大

房

此中

曲翠

鼻れり少し涙乃るそ暮るゆ

おひら乃月れ懐つるく

酒堂

新着子と二冬あ派と来て

全

赤ひすりきくく士の徒云

翠

くくくれ高白乃朝のそ私合

全

研蕃名と船と揚る係

堂

你年きおろこころく下巻

全

ゆゑに時をいふ鐘イライにき

翠

綾の利とめて百はくしり

全

世やしひきこつとあれつ

堂

よまよま田の荒はくしり

全

嵐乃元はくしり二月

翠

花乃中もよろれしよく

全

登るをいふ風呂

堂

徳一と甲斐の文書めい

全

志し流にまゝくあき

翠

類あつとく月さすめ

全

悪せき清景はくあ

堂

それ中ハ月をいふ

全

くぬかき月顔は形

翠

函天の紅糸し散る

全

袋一とく大根の湯

堂

進ひめりはくしり

全

ぶぐと亀乃掛ら

翠

菊やして若流し

全

志しりき川よ城下

堂

海ぶき言ぬ内より華師押入きて

こころはくせん喰ふ小割と信 翠

笠縫乃里くくくきくる牛乃皮

わをさくはよぎやうく一傷 堂

待宵の歌とよぶいんきくるに川の渚

わくくくくくくくく乃下帯 全

逗留の内とあはれては情く

門よき流くきくくく乃空 堂

粟乃下しイラカ堂乃えき家増と寺

湖イラカくまをいぬ鳥の羽白 翠

忘年之書懐 素堂亭

節季候

帝季の成産のりくくく出之於 くら茂

餅春

しら搦や揚くくくくく鶏の白 嵐蘭

夜配

みくくくくえくくくくく衣くく 曾良

佛名

仏名は腰氏くく香の香くく 洒堂

歳昏

後中水反古足ふし年のうた

素堂

餘興

つら〜志と蓋に枕をたたくん

洒堂

持〜あ〜る管巻れふらじ

素堂

宵の月う〜る窓に宿〜して

為

程舟〜られ編多に〜ら

梅人

丁〜し油メ其の秋〜能〜

胤十

能作〜し舟乃阪内

里絡

志〜〜くを軍も止〜して津新

梅林

早〜〜ら〜か〜色も夜〜の羽打

蒼谷

よのち海女帰〜し糸のむ杉花の花

奥葉

垣もし〜し〜ら〜位〜く〜庵

梅府

彫刻の伸の層とと電灯下

人

上の白くも〜る〜位〜のが好

十

昔の梨乃〜〜み〜も〜交〜恋〜と〜て

絡

あ〜河〜ゆ〜ま〜う〜む〜花〜乃〜月

林

波の音〜して秋風浪〜よ〜なり

谷

力の鈴乃石〜は〜う〜ら〜む

葉

芋種も極は舞〜ら〜る〜花盛

府

一羽くわたりて榮花乃ち露
澗氷もやとらん早く如新氷
いんすや伸し銀治く無臥
尺八の師ともものぬき拍語
世よ似し事乃ち三事忘く
十日めの夕より雪おりのより
誰よつゝの嵐一籠
優婆塞公乃禪よくゆく本履み
衣くうへ川夕顔の若
露よ瘦しカイナ眩乃ち透し無り

人 十 路 林 谷 葉 府 人 十 路

踊傳を神乃ち負あ
鈴玉のちるくくく月露
州も常は茂にあらん
旅河する不二と去向亭達
家より茂茂よ甥の仁合
一巻を海をいそぐる文者
鳴井あわく玉川の末
ゆ花にたぐれこれ連つて
公酒ゆく籠のうらさ

林 谷 葉 府 路 十 林 人 谷

兼房のたて置り人牙

一本のむしんを顔乃其後
花乃碎さゆを松に名の色
ふろりや人教る跡のまわい
きくあしき宿ま七の跡
酒入ぬ青よハ折し葉さくら
きのよふり羽衣や梅を白す
子むらり一本の梅情ゆ
むしんて青をさくくえにり
松梅や三十日すすむけ

杉風
蒼谷
梅府
荒十
鯉昇
右拱
里父
野松
松人

その中より下戸とす
松めくむしん乃葉折の那
常らまき梅にきく
帰らまき梅ひきり山梅
冥の戸もしりきむら
囀乃有やうのまこい
む守のまんとして松の梅け
下蔭や毛はせ存れをじ
毛纏のふにきく
今期の人子号きく

梅笥
南山
百英
連谷
永子
梅祖
宗拱
東旭
砂旭
崔阜

木更ッ

持入は夕月、暮らしてさうさう

里九

あまのふゆ人よもたれて梅人

梅林

銭つゝと到る宿いや花の山

里路

梅く子歎きあそむ悔の巻

魚葉

とて空子誘ふまを山はとて

祇雀

卯にさる人をく梅のつと

梅人

留中にておれ行く此あり

試み筆とどろく

あゝ此にたもふとかく月えぬ

素堂

をくやに改しきくえて後の月

徳布

月六にいし神日にむしうらむ

魚葉

十六おれ夕子ころもかこく

里路

名月や四方に輝く御魚門

梅林

明月や木村をそのく懐鳥

朧十

名月や波多ゆりく帆立貝

梅府

名月や夜中の空けお年ゆり

梅人

蟬乃をあそぶ色やのら水月

菅奴

名月や常水くく乃鐘舟

市文

明月乃柳数りくま十三夜

梅弟

更けの月お織糸くは後の月

梅静

蛇子産葉をらや月こころし
りしの月入おんほそきいし
月々青まに霜あをまきし
桂もよおの夜やのられ月
嘆もいそくぬれらの月見えぬ
たつき高き月色に照るや十六夜
淡書や空見えよきくもりの月
雪多けりし雪子に介やほれ月

我子よ戸の神宮にすまひ

いそいそとてまきしに雪

侍まていそきかきしつまひ

たうりし子師老中の八むかし

雪多けりし雪子

神宮や幸唐にまらまあ家
松の雪風の音して寝りし
雪多けりし雪子
相乃雪まきそはらむぬる
氷電ぬけし雪のし形わらわの雪
大雪に高根をうらぬ雪色小
傾城の屋まきそくく月乃雪

左拱

風曲

千雪

摩訶

阿山

大椿

一燈

蒼君谷

翁

梅人

柙規

其奥

錦水

山冬

喜山

本更律

与サス我原

本更律

南畝

露澄

梅賀

一法

角子

梅林

里谿

魚葉

嵐十

梅府

たつろくも積りて名乃静く

ふるに堪て朱乃沙場子

あゝ海や舟々舟はくも乃寄

神名ら行く空ハ玉あゝ此

しりもらたらぬ葉を月月夜

雀ホ子并前信や門乃寄

ふりら宮臨ちしはくも

神雪やもあはくはくも

この中にゆくし名乃白さば

霧しももる名あり竹の寄

春江

蒼谷

我泉

既醉

附録

神名ら行く空ハ玉あゝ此

しりら宮臨ちしはくも

神雪やもあはくはくも

この中にゆくし名乃白さば

霧しももる名あり竹の寄

雀ホ子并前信や門乃寄

ふりら宮臨ちしはくも

神名ら行く空ハ玉あゝ此

しりもらたらぬ葉を月月夜

あゝ海や舟々舟はくも乃寄

ふるに堪て朱乃沙場子

たつろくも積りて名乃静く

下総吉ラカ

久方

岩久保

岩ア

上ツ内

百枳

梅露

観星

宗推

月庵

麦秋わけらる寺乃修業佛
風の空の入りや木くの宿よし
糸のむらさきほの物より梅より

朗笛
楚風
芦風

くやんば金をとらうてぬ

鏡丹びりよけぬ字や夕の海

梅人

寛政二戌仲秋

本町三丁目

深川集終

西村源六扱

